

ZSSSK

# 生活科・総合教育だより

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会会報

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会

事務局 東京都墨田区立緑小学校  
〒130-0021 東京都墨田区緑2-12-12  
TEL 03 - 3634 - 6876

発行人 水谷 光一

編集人 長田 真理子

## 第 27 回 全国小学校生活科・ 総合的な学習教育研究協議会 「石川大会」を振り返って

大会実行委員長 山岸 郁生  
(金沢市立三和小学校長)

平成 30 年 11 月 8 日・9 日に石川県金沢市において、第 27 回全国・第 26 回石川県小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会を開催いたしました。

時期が秋の観光シーズンと重なり、宿泊や交通機関の確保に大変ご迷惑をおかけしたことと思います。そのような中、全国各地より 700 名（2 日間の延べ人数は、1,000 名）を超える参加者をお迎えして開催できましたことを実行委員会を代表して心より感謝申し上げます。

### 1. ふるさとの大地とともに輝け未来へ

本大会の大会主題は「ふるさとの大地とともに輝け未来へ」です。これは、子どもたちが石川の地ならではの素材を生かした学習を展開しそこで身につけた資質・能力を生かしながら自らの未来や人生、社会を作り出してほしいと願ったものでした。

1 日目の全体会では、文部科学省教科調査官の渋谷一典様から、本大会の副題である「新たな学びの物語 ～つなぐ つなげる つながる」に対してご指導をいただきました。その中で、児童の関心・意欲を大切にしたいストーリー性、学習過程の質的改善、一人一人の学びの過程を大切にしたい多様性のある学びについて、具体例を挙げて大会の授業に対する期待を述べられました。國學院大學教授の田村学様からは、豊富な実践例を通して、「主体的・対話的で

深い学びを実現する」と題してご講演いただきました。その中で、探求的な学習における児童の姿や体験活動の充実、表現活動の工夫、カリキュラムデザインについて丁寧に教えていただきました。

### 2. 会場校での授業公開

2 日目は、金沢市立泉小学校、兼六小学校の 2 校で授業公開が行われました。泉小学校では「ともに学び、高め合う子」という研究主題のもと、兼六小学校では「自ら考え、ともに学びを高め合う子の育成」という研究主題のもと、どちらも全学級での授業公開が行われました。生活科でも総合でも金沢の魅力が題材とした授業が行われ、主体的・協働的に学ぶ子どもの姿や豊かな対話をする子どもの姿をお見せすることができました。どちらの学校でも多くの先生方が参観され、授業討議でも活発な意見交換が行われました。

### 3. 課題別分科会での実践発表

2 日目の午後からの課題別分科会では、全国 24 の都道府県からの優れた実践が提案されました。副題の「つなぐ、つなげる、つながる」に合わせたつきたい力を育むカリキュラムのあり方、深い学びを実現する指導のあり方、学びに向かう力をうみ出す評価のあり方の 3 つの視点から提案され、それぞれの会場で熱い討議が行われました。

皆様のおかげで、この 2 日間は大変内容の濃い研究協議会となりました。会場校の助言をいただいた元主任視学官の嶋野道弘先生、金沢大学の松本謙一先生をはじめとするお世話になった先生方にお礼を申し上げますとともに、これからも生活科と総合的な学習の時間を充実に向け、努力していきたいと思っております。本当にありがとうございました。

## 第25回東北地区小学校生活科・ 総合的な学習教育研究協議会 秋田大会を終えて

大会主題

「つなげるんだ！ ひろげるんだ！  
たかめるんだ！」

東北小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会  
会長 田口 桂一郎  
(秋田県仙北市立角館小学校長)

平成30年11月2日(金)晩秋を迎えた秋田県仙北市田沢湖町の地に、地元の秋田県の他、東北各県からたくさんの先生方、さらに遠くは静岡県からお迎えし総勢320名程の参加のもと、第25回東北地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会秋田大会兼第14回秋田県小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会仙北大会を仙北市立生保内小学校、仙北市民会館で開催いたしました。

東北地区で行われた大会は今回で25回目となります。東北地区は青森・岩手・宮城・山形・秋田の5県で協議会を組織し、5県の持ち回りで東北大会を開催してきました。秋田県での開催は今回で5回目となります。

本県ではすでに人口100万人を割り、その減少傾向が続いています。まさに少子高齢化の先進県であります。学校の統廃合も進み、小学校は全県で200校ほどになりました。こうした現状を予測し、本県ではすでに平成5年度から学校教育共通実践課題として「ふるさと教育の推進」を掲げ、郷土愛の醸成、自ら学び課題を追究する力などの学ぶ力の育成、秋田の将来を支えていく人材の育成を図ってきています。ここ数年は、学力向上施策で全国的に注目され「秋田型探究学習」「少人数学習」「学習規律」「ふるさと・キャリア教育」などで県外・タイなどの国内外からの視察・研修を盛んに受け入れるようになりました。各校においてはふるさと教育全体計画のもと、これまで学校教育活動全般にわたって実践を積み上げてきたことで地域との連携も定着し、地域の課題に密着した学習・行事が実践され充実してきています。

今回の大会主題も、ふるさとの「もの・ひと・こと」への主体的なかかわりと対話の姿、さらに高め合う姿を求めて設定したものであります。

授業公開された生保内小学校では、これまで積み上げてきた地域との深い絆を存分に生かして、自分の

地域や自然環境に目を向けた生活・総合の実践について、生活科では「想いや願いをもってひと・こと・もの」と関わり、気付きの質を高め表現する子供の育成～地域とつながる生活科の授業を通して」、総合では「ふるさとのよさがわかり、ふるさが大好きな子どもの育成」をテーマに全学年で授業公開していただきました。さらには新指導要領の移行期初年度ということもあり、改定のキーワードである「スタートカリキュラム」「カリキュラムデザイン」「育てたい資質・能力」などへの先進的な取組など発表していただき、会員にとって2年後の完全実施に向けて大変参考になる授業や資料となりました。

課題別分科会では、4つのテーマで生活科・総合別に8会場において、東北各県の実践発表を元にそれぞれの協議をいたしました。地域の特色を生かした実践発表を中心に活発な意見交換が行われ有意義な情報交換が行われました。

開会行事の後、渋谷調査官から授業や研究についての全体指導をいただきました。地元のこども園と連携して作成したスタートカリキュラムや地域と密着した授業づくり、授業で撮った写真を交えて、気付きを高めていく子供の姿、主体的で探究的な授業、子供たちの意欲的な取組などについて講評をいただきました。併せて生活科・総合の改定のポイントについても解説いただきました。

続いて、「教科調査官がつなぐ生活科・総合的な学習の未来～子どもの可能性をひらく教師～」と題したシンポジウムが行われました。シンポジストには、嶋野道弘先生、田村学先生、渋谷一典先生という新旧御3人の生活科・総合担当の調査官をお迎えし、秋田大学客員教授の濱田純先生をコーディネーターに、生活科・総合的な学習の時間の誕生からこれまでにについて、調査官本人ならではの熱い想い、苦労話、引き継いだ当時の想いなど楽しいエピソードを交えてお話いただき、あっという間の90分間でありました。それぞれの先生方から生活・総合への想いを語る中で、教科としての存在の意義を改めて確認できた時間でありました。

最後になりましたが、本大会の開催にあたり、2年間ご指導をいただきました渋谷・濱田両先生、ご支援・ご指導いただきました秋田県教育委員会、仙北市教育委員会、地元の研究会の皆様、そして会場校の皆様にご心より感謝申し上げます。

## 「未来を拓く子供たち」を目指した 東京地区の取組 ～「関東大会」を終えて～

東京都小学校生活科・総合的な学習教育研究会  
副会長 齋藤 等  
(第 20 回関東地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会  
東京大会実行委員長 渋谷区立神宮前小学校長)

### 「東京地区の状況」

東京都は、高層ビルが立ち並ぶ都心部から緑豊かな奥多摩、さらには小笠原諸島までを含む 23 区 26 市 5 町 8 村からなり、およそ 1,280 の小学校があります。少子化の時代ですが、都の公立小学校児童数はおよそ 586,000 人で、この 5 年間で 25,000 人以上も増えています。統廃合された学校もある一方、人口が急激に増え児童数が 1,000 人以上の大規模校も増えてきています。小学校の教員数はおよそ 33,000 人ですが、この 10 年程は、経験豊富だった教員が大量に退職する時期とも重なって、経験年数が 1 桁の教員が全体の半数を占めている学校もあり、教員の授業力向上が喫緊の課題となっているところで

す。東京都では、区市町村ごとに教科・領域別の研究会を組織していることが多いですが、域内の小学校数が少なく、生活や総合の研究会が休部中の地区が 5 つあります。また、休部中でなくとも、他教科に比べて部員数が少ない地区もあるため、有益な情報がほしい、より専門性を高める研究に取組みたいという意欲をもった教員が東京都全体から集まり、本研究会が組織されています。

1 年間の主な活動は、年次総会・研究推進委員会全体会、公開授業研究・協議会（生活・総合を各 1 回）、夏季研究会、冬季研究会、視察研修会・実技研修会等があります。授業研究や研究会には、文部科学省の渋谷先生をはじめ講師の皆様からご指導いただいています。これらの研究の基盤となる年間を通じた組織として、「活用・探究」「自立・自律」「対話・協働」等の視点をもった分科会が 7 つあり、各分科会には十数人程度が所属しております。また、生活・総合の授業改善に意欲をもつ若手教員等が集まる「研究員」制度も設けています。各分科会や研究員への助言をする校長・副校長らの役員は、30 人近く所属しています。

夏季研究会等には、日頃、本研究会に所属していない教員も参加し、100 人を超える会になることも

ありますが、各分科会の会合は、放課後に少人数で協議している場合も多く、更に活性化させていくことが課題となっています。

研究成果は、紀要にまとめるほか、毎年、全国や関東地区の各大会で報告していますが、本年度は、関東大会が東京での開催だったため、7 分科会すべてが発表しました。

### 「関東大会」を終えて

平成 30 年 11 月 30 日（金）に、渋谷区立千駄ヶ谷小学校・幼稚園、渋谷区立千駄ヶ谷区民会館を会場に、第 20 回関東地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会東京大会を開催いたしました。

当日は、関東地区 1 都 6 県をはじめ全国各地の学校の教員や大学の研究者、学生、各教育委員会関係者、出版社等の 400 名を超える皆様にご参加いただき、盛会のうちに大会を終えました。

平成 29 年 3 月に示された新学習指導要領は、本年度から移行期間が始まり、とりわけ、生活科と総合的な学習の時間は、未来を生きる子供たちに必要な資質・能力の育成を目指した今次の学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程の実施にあたり、従前以上に大きな役割や可能性を担っております。このような状況を踏まえ、本年度の東京大会では、大会主題を「未来を拓く子供たち」とし、開催いたしました。

午前中は、開会行事や基調提案の後、関東地区各都県の実践や研究等の発表と協議、午後は、学校（園）の研究発表と公開授業（保育）、協議会を行いました。まとめの全体会では、講師の渋谷一典先生、河合優子先生、嶋野道広先生、野口徹先生、寺崎千秋先生らによるシンポジウムとして各先生からお話を頂戴し、これまで及び当日の授業と協議会の状況を含めて、様々な角度から専門的かつ実践的なご指導を賜りました。関東各都県はもとより、全国の先生方とともに、新学習指導要領の全面实施を視野に入れた生活科・総合的な学習の時間の授業実践や様々な取組について、参加者一同で大いに学び合うことができ、各都県の研究協議会の研究内容がより一層充実・改善していくことにつながったものと考えております。皆様には、様々な面からご協力いただき、感謝申し上げます。

東京地区では、この関東大会を一つの区切りとして、次年度から各分科会を再編成し、4 年後の全国大会を見据えて研究・実践をさらに充実・発展させるべく、取組を進めていく計画です。

## 全国小学校生活科・ 総合的な学習教育研究協議会の発展

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会

会長 水谷 光 一  
(東京都墨田区立緑小学校長)

今回の新学習指導要領の総則改正の要点として「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、カリキュラム・マネジメント充実、児童の発達の支援、家庭や地域との連携・協働の重視が明示されていますが、他の教科・領域のどの研究会のテーマを見ても、この三つのことがテーマに揚がっています。これらのことに先駆的に取り組んできた生活科や総合的な学習の時間の研究は重要な役割を果たさなければなりません。そのような意味合いがある中での総合的な学習の時間の全面実施の平成30年度でした。

本研究協議会では、11月8日・9日に石川大会を開催いたしました。本大会では、「ふるさとの大地とともに輝け未来へ 新たな学びの物語～つなぐ つなげる つながる～」を大会主題に置き、金沢市立泉小と同市立兼六小で授業公開、授業討議を始めとした実践提案を行いました。さらに、24の都道府県による課題別分科会を行い、先進的な実践報告と活発な意見交換がなされました。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善はもとより、地域との連携・協働の大事さが十分にあらわれた大会でした。また、当日、行われた本協議会の理事会では多くの理事から出された各都道府県の熱い思いも共有できました。新学習指導要領の改訂の中で、生活科・総合的な学習の時間への関心の高さ、期待を確認することができました。

そして、北海道ブロック＝北海道大会・札幌立白楊小学校・北九条小学校・幌北小学校・北辰小学校、東北ブロック＝秋田大会・仙北市立生保内小学校、関東ブロック＝東京大会・渋谷区立千駄谷小学校、近畿ブロック＝奈良大会・大和郡山市立片桐西小学校、中国ブロック＝広島大会・呉市立郷原小学校、四国ブロック＝高知大会・香美市立楠南小学校、九州ブロック＝大分大会・佐伯市立鶴岡小学校において、各ブロックでも大きな成果を収めることができました。

未来を生きる子供たちのために、生活科・総合的な学習の時間の趣旨をきちんと理解し、日本全国、各地区の小学校において適正な取組がなされるよう、本研究協議会として、実践という形で普及する努力をしていくことを肝に銘じ、来年度、協議会をさらに発展させていきたいと思います。

## 〈事務局だより〉

## 全国大会及び 全国理事会報告

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会

事務局長 小林 佳 世  
(東京都世田谷区立明正小学校長)

2019年11月8日・9日に、第27回の全国大会が石川県において開催されました。2日間で延べ約1000名の参加者を得て、盛会裏に終わることができました。

1日目は、県立音楽堂邦楽ホールにて、全体講評・指導講話（渋谷一典教科調査官）、記念講演（田村学教授）が行われました。生活科・総合的な学習の時間の本質、教育課程全体における役割や可能性を再認識いたしました。

2日目は、金沢市立泉小・兼六小にて、公開授業・授業討議・課題別分科会等が行われました。本大会の開催に向けて長期に亘り準備を進めてこられた山岸郁生大会実行委員長を始め、すべての実行委員の皆様へ深く感謝申し上げます。

第2回全国理事会は、大会初日に渋谷一典教科調査官、都道府県理事38名、歴代顧問、事務局等総勢51名の出席者で開催しました。渋谷教科調査官から情報提供をいただいたほか、2019年度兵庫大会における課題別分科会の各都道府県への発表分担の協力依頼等がなされ、出席者全員で第28回の全国大会の成功に向け協力することを確認いたしました。

### 2019年度全国理事会のご案内

- 全国理事会は、年間2回開催しています。
- 第1回は例年7月の第1金曜日午後1時に東京で行い、年間の活動計画や予算案の検討、全国大会・地区大会の案内、情報交換、講演会等を実施しています。第2回は、全国大会の1日目に開催しています。今後も充実した組織作りに取り組んで参ります。
- 2019年度の第1回全国理事会は、7月5日（金）の14時から東京ガーデンパレスを会場に開催いたしますので、ご予約おきいただきますようお願いいたします。理事交代予定の都道府県におかれましては、確実な引継ぎをお願い申し上げます。